

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

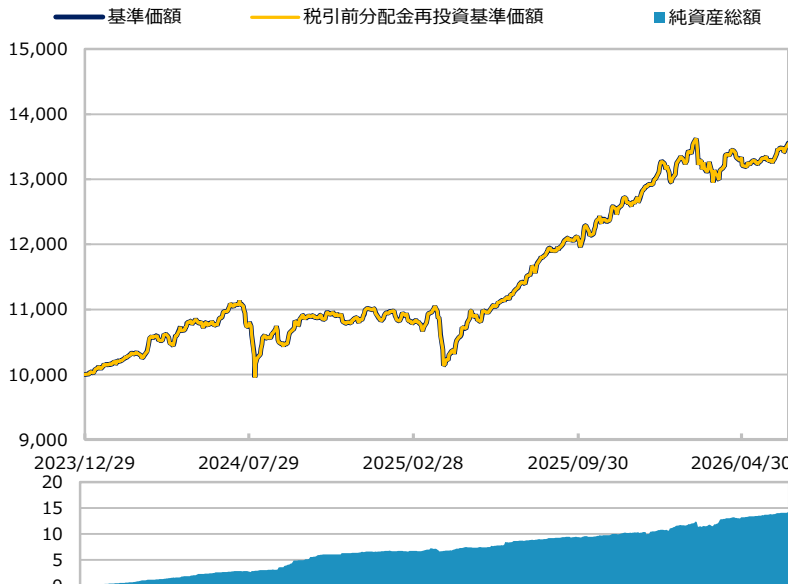
追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンド設定日：2024年01月04日

日経新聞掲載名：はぐニー成長

基準価額・純資産総額の推移 (円・億円)



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
- 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額 (円)	13,553	+241
純資産総額 (百万円)	1,430	+69

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率 (税引前分配金再投資) (%)

	基準日	ファンド
1 カ月	2026/05/29	1.8
3 カ月	2026/03/31	4.2
6 カ月	2025/12/30	4.9
1 年	2025/06/30	21.1
3 年		
設定来	2024/01/04	35.5

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- ファンド購入時には購入時手数料、換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績 (税引前) (円)

期	決算日	分配金
第1期	2024/05/15	0
第2期	2024/11/15	0
第3期	2025/05/15	0
第4期	2025/11/17	0
第5期	2026/05/15	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率 (%)

	基本 配分	当月末	基本配分 との差	前月比
株式計	45.0	44.7	-0.3	-0.0
日本株式	22.5	21.9	-0.6	-0.2
グローバル株式	22.5	22.8	+0.3	+0.2
債券計	32.5	31.3	-1.2	-0.1
日本債券	10.0	9.4	-0.6	-0.2
海外債券	22.5	22.0	-0.5	+0.1
リート	22.5	20.9	-1.6	-0.0
現金等	0.0	3.1	+3.1	+0.1
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

※ 各組入投資信託の正式名称は2枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因(円)

	寄与額
日本株式	+52
グローバル株式	+92
日本債券	+3
海外債券	+73
リート	+31
分配金	0
その他	-11
合計	+241

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。

※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

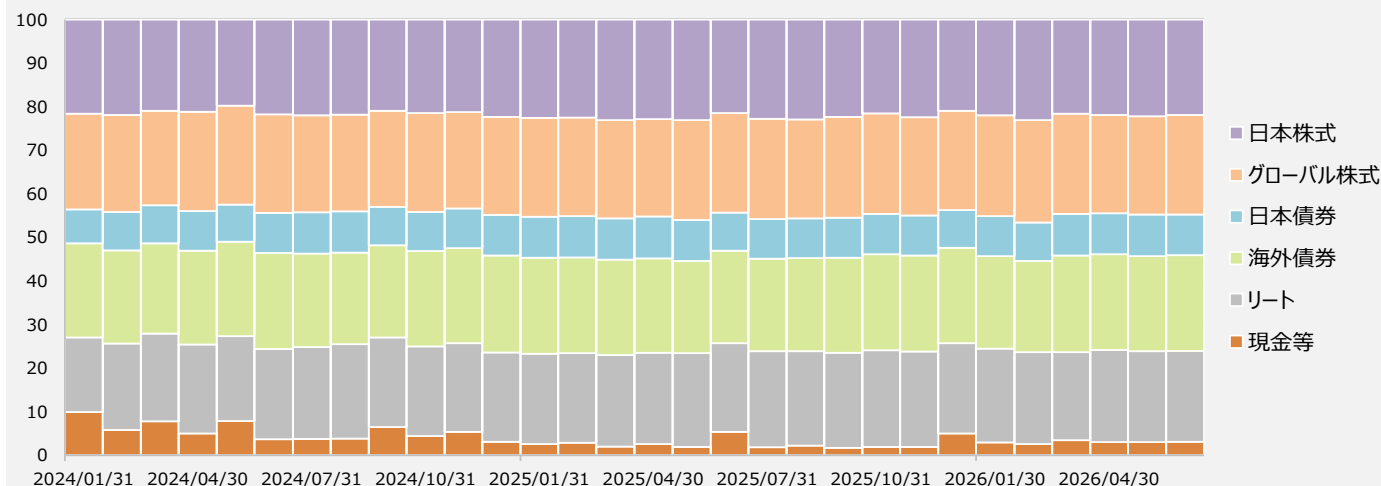
マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

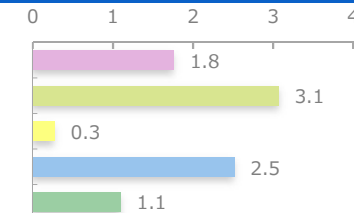
資産構成比率の推移 (%)



組入投資信託の騰落率 (%)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
日本株式	1.8	5.5	9.7	36.6	-	66.7
グローバル株式	3.1	8.0	13.4	36.2	-	77.6
日本債券	0.3	0.5	0.2	2.4	-	3.1
海外債券	2.5	3.2	4.3	17.4	-	26.5
リート	1.1	3.4	-2.6	11.4	-	18.0

当月騰落率 (%)



- ※ 日本株式の正式名称は「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」です。
- ※ グローバル株式の正式名称は「グローバル好配当株マザーファンド」です。
- ※ 日本債券の正式名称は「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」です。
- ※ 海外債券の正式名称は「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」です。
- ※ リートの正式名称は「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンドマネージャーコメント

＜運用経過＞

各資産とも方針通り高位の組み入れを継続しました。資産配分は、基本方針からの乖離が小さくなるように調整しております。

国内株式市場は上昇しました。上旬は、米国での堅調な経済指標を受けた利上げ観測の高まり、米・イラン情勢の先行き不透明感、日米の金融政策決定会合を控えた投資家の警戒感から、下落しました。その後、米・イラン両国が戦闘終結で合意したことや、日米の金融政策決定会合を無難に通過したことを受けて上昇しました。

米国株式市場は小幅に下落しました。米国とイランの停戦を受けて好材料の出尽くし感が広がる中、上旬は雇用統計が強い内容となり、利上げへの警戒感から下落しました。また、複数の大型IPO（新規株式公開）の観測も需給面での調整圧力となりました。

米国の長期金利（10年国債利回り）は小幅に上昇しました。上旬は、雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に、金利が上昇しました。

米ドル/円は上昇しました。米雇用指標の上振れやFOMC（米連邦公開市場委員会）がタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な内容と受け止められたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。下旬は、日銀の追加利上げ観測の後退などから一段と円安が進みました。

リート市場は分配金の増加サイクルにあるという実需の強さから上昇しました。

米ドル高・円安等の影響からファンドの基準価額は上昇しました。

＜今後の運用方針＞

引き続き、各投資信託を組み入れることにより、実質的に世界の株式、リート、債券に分散投資を行い、安定的なインカム収益の確保と信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	98.5	+0.5
先物等	0.0	0.0
現金等	1.5	-0.5
合計	100.0	0.0

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比	
1 卸売業	11.6	-0.6	11.6
2 銀行業	11.2	+1.1	11.2
3 建設業	9.4	+0.3	9.4
4 電気機器	7.8	+0.7	7.8
5 サービス業	7.8	+0.0	7.8
6 情報・通信業	7.0	+0.1	7.0
7 小売業	4.6	+0.1	4.6
8 ガラス・土石製品	3.5	-0.1	3.5
9 化学	3.4	-0.1	3.4
10 その他金融業	3.3	-0.0	3.3

※ 業種は東証業種分類です。

ポートフォリオ特性値（％）

	ファンド	市場
予想配当利回り	3.6	2.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 「市場」はTOPIXの値を表示しています。

※ NPMのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄（％）

		(組入銘柄数 101)	
銘柄	業種	比率	
1 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	4.0	
2 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.6	
3 三井住友トラストグループ	銀行業	2.4	
4 第一ライフグループ	保険業	1.7	
5 ジェイテクト	機械	1.7	
6 三機工業	建設業	1.6	
7 日本特殊陶業	ガラス・土石製品	1.5	
8 KDDI	情報・通信業	1.5	
9 オリックス	その他金融業	1.5	
10 兼松	卸売業	1.5	

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

6月の国内株式市場は上昇しました。

上旬は、米国での堅調な経済指標を受けた利上げ観測の高まり、米・イラン情勢の先行き不透明感、日米の金融政策決定会合を控えた投資家の警戒感から、下落しました。その後、米・イラン両国が戦闘終結で合意したことや、日米の金融政策決定会合を無難に通過したことを受けて上昇し、TOPIXは史上最高値を更新しました。ただし、月末にかけては短期的な過熱感から利益確定売りが優勢となり、上げ幅を縮小しました。業種別では、電気機器、銀行業、サービス業などが市場をアウトパフォームした一方、卸売業、情報・通信業、石油・石炭製品などがアンダーパフォームしました。

＜市場見通し＞

国内株式市場は、高値圏でもみ合う展開を予想します。世界景気は、エネルギー価格上昇の影響を受けて一時的に下振れるものの、AI投資拡大や拡張的な財政出動が支えとなり、拡大基調が続くと予想します。中東情勢の先行きには注意が必要ですが、戦闘終結の合意を受けた原油価格の下落傾向などから、景気の下振れリスクは後退しつつあります。加えて、国内では財政出動により景気への悪影響が抑制され则认为ます。総じて底堅い内外景気を背景に、企業業績の改善基調は続くと予想しますが、AI関連株の高値警戒感や、米国利上げ観測の一段の高まりが上値を抑制する要因になると考えます。

＜運用経過＞

個別銘柄の予想配当利回りに注目しつつ、業績見通しや財務状況、株主還元策を含めた経営戦略などを勘案しながら銘柄入れ替えを行い、ポートフォリオ全体の予想配当利回り水準の引き上げに努めました。

＜今後の運用方針＞

「高水準の配当を継続できる銘柄に投資する」という観点で投資銘柄を選別していく方針です。企業の株主還元姿勢に加え、業績動向、キャッシュフローの創出力や配当余力など、様々な側面から銘柄を抽出し、ポートフォリオを構築していきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「配当フォーカスマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜ファンドマネージャーからのひとこと＞

6月の株式市場も引き続き、半導体、AI関連の一部銘柄だけが集中物色される展開となりました。

数週間前、ある企業への取材の場で、先方のIR担当者からため息交じりにこのようなことを言われました。その企業は、業績は決して悪くはないのですが、相場の物色対象外であることから株価はさえない展開が続いています。

「当社は、機関投資家のみなさんからの意見を真摯に受けとめ、株主還元策を改善するなど、企業価値向上策を積極的に実行しています。そのことについては、みなさまから高評価の意見を多くいただいています。ただ、ある機関投資家から、『評価はしますが、御社の株は買いません。なぜなら御社の株は物色対象外で値上がりしそうにないからです』と言われました。これじゃあ何のために、みなさんの意見を聞き、企業価値向上の努力をしているのかわかりませんよ」

私は、このコメントに対して、なんと言っているかわからなくなっていました。

この企業だけではありません。他にも、「投資家から自社株買いの要求は多くいただいています、今はしません。なぜならこのような相場環境下で行っても、株価評価改善にはつながらないからです」と、はっきりとおっしゃった小売企業のマネジメントの方もいました。

このようなコメントに対し、様々な意見があるかとは思いますが、このようなことを思う企業の方々の気持ちもわかります。ここ数年、日本企業の企業価値向上への取り組みが積極化し、それが日本株上昇の原動力のひとつになったことは事実です。そのトレンドが弱まってしまわないか心配しています。

先月もこの場で書きましたが、私は、集中物色されている銘柄がどれも割高であるとは思っていません。ただ、今これらの銘柄を積極的に買っている投資家の多くが、その銘柄が割高か割安かなどと考えずに、「極めて短期間に大きなリターン」が期待できるから買っているのではないかと思います。このような状況は長くは続かず、また違った展開になるのではと考えています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
株式	95.3	-0.1
先物等	0.0	0.0
現金等	4.7	+0.1
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値 (%)

	当月末	前月比
配当利回り	3.3	-0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りはBloombergのデータを基にした直近配当利回りです。Bloombergに配当情報がない銘柄は除いて算出しています。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比	
1 アメリカ	31.1	-0.1	31.1
2 日本	11.8	+1.1	11.8
3 スペイン	10.2	+0.1	10.2
4 オーストラリア	9.6	+1.5	9.6
5 フランス	9.0	-0.4	9.0

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比	
1 アメリカドル	32.5	-0.3	32.5
2 ユーロ	26.6	-0.7	26.6
3 日本円	11.8	+1.1	11.8
4 オーストラリアドル	9.6	+1.5	9.6
5 シンガポールドル	4.6	+0.2	4.6

組入上位5業種 (%)

	当月末	前月比	
1 銀行	14.7	+0.0	14.7
2 商業・専門サービス	9.8	+0.6	9.8
3 公益事業	8.4	+0.5	8.4
4 金融サービス	7.3	-0.6	7.3
5 エネルギー	6.5	-0.6	6.5

※ 業種は、外国株式がGICS（世界産業分類基準）による分類、国内株式が東証業種分類です。

組入上位10銘柄 (%)

(組入銘柄数 59)

	銘柄	国・地域	業種	比率	配当利回り
1	DBSグループ	シンガポール	銀行	4.6	4.8
2	イベルドローラ	スペイン	公益事業	3.1	3.1
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	日本	銀行業	3.0	2.7
4	BAWAGグループ	オーストリア	銀行	2.8	2.3
5	バンク・オブ・ニューヨーク・ Mellon	アメリカ	金融サービス	2.7	1.5
6	BBVA	スペイン	銀行	2.5	4.2
7	インドゥストリア・デ・ディセニョ・テキスタイル	スペイン	一般消費財・サービス流通・小売り	2.5	3.1
8	アメリカン・ウォーター・ワークス	アメリカ	公益事業	2.5	2.6
9	コンピューターシェア	オーストラリア	商業・専門サービス	2.4	2.9
10	コールズ・グループ	オーストラリア	生活必需品流通・小売り	2.2	4.3

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

【株式市場】

米国株式市場は小幅に下落しました。米国とイランの停戦を受けて好材料の出尽くし感が広がる中、上旬は雇用統計が強い内容となり、利上げへの警戒感から下落しました。また、複数の大型IPO（新規株式公開）の観測も需給面での調整圧力となりました。その後、原油価格の下落や、スペースX社の上場完了で反発する局面もありました。しかし、中旬のFOMC（米連邦公開市場委員会）で政策金利は据え置かれたもののタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な姿勢が示唆されたことに加え、テクノロジー関連銘柄の利益確定の売り圧力もあり、上値の重い展開となりました。

欧州株式市場は上昇しました。中東情勢の落ち着きによる世界的な景気持ち直し期待やエネルギー価格の下落が支援材料となりました。ECB（欧州中央銀行）の利上げ実施による影響は限定的でした。

アジア・オセアニア株式市場では、香港市場は下落しました。中国政府が金融機関などを対象に対外資産への投資規制を強めていると報道されたことなどが嫌気されました。一方、需給逼迫から主要製品に対する値上げが期待された電子部品メーカーや半導体向け電子材料メーカーなどが牽引した台湾が上昇しました。

【為替市場】

米ドル/円は上昇しました。米雇用指標の上振れやFOMCがタカ派的な内容と受け止められたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。下旬は、日銀の追加利上げ観測の後退などから一段と円安が進みました。ユーロ/円は前月末と比較して概ね横ばいとなりました。中旬にかけて日銀総裁のタカ派的な発言や日本政府・日銀による為替介入への警戒からユーロ安・円高となりました。月末にかけては、日銀の追加利上げ観測が後退したことを受けて円安となりました。

＜運用経過＞

当ファンドは、景気変動の影響を受けにくい業種に軸足を置き、減配リスクを考慮した運用を行いました。6月は、魅力的な配当利回り水準に加えて、安定した販売数量の拡大とガス調達価格安定化による収益率の改善が期待されることから、日本の公益銘柄を新規購入しました。また、北米市場の競争環境の改善と国内市場での価格引き上げによる増益増配が続く見通しであることから、日本のタイヤ銘柄も新規購入しました。一方、足元の株価上昇により相対的に割安度が低下していると判断し、台湾の半導体銘柄を一部売却しました。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場見通し＞

【株式市場】

米国株式市場は、トランプ大統領が中間選挙に向けて強硬的な対外政策を続ける可能性があり、地政学リスクが依然残っていることや、一部に割高感がみられることから、上値の重い展開が見込まれます。ただし、米国の企業業績は堅調な推移が今後も続くともみられ、徐々にレンジを切り上げる展開を予想します。

欧州株式市場も、ECBや米国の金融政策に対する警戒感が当面の上値を抑える展開が見込まれます。ただし、ドイツをはじめとする欧州主要国での財政出動の効果が期待されることから、緩やかな上昇を予想します。

アジア・オセアニア株式市場は、AIの浸透が中長期的に経済成長や企業収益の改善につながるとの期待を背景にテクノロジー産業への投資や生産が拡大していることから、底堅い推移が見込まれます。ただし、米中の貿易協議を巡る不透明感や中東における紛争などがリスク要因として残ることから市場の変動性が高まる可能性があります。

【為替市場】

米ドル/円は米ドル高・円安を予想します。金融政策の方向性は日米ともに利上げが想定されるなか日米金利差が維持されることに加え、日本企業の対外直接投資拡大や家計の外貨建て投信購入拡大などが円安材料と見込まれます。

ユーロ/円はもみ合いの展開を予想します。日銀の追加利上げ観測が円高要因となることが見込まれる一方、ドイツなどの財政支出によりユーロ圏景気がサポートされることや、ECBの追加利上げ観測がユーロ高要因となる見通しです。

＜今後の運用方針＞

当面の株式市場は、情報技術など一部のセクターだけではなく、より広範囲なセクターにおいて業績・配当面で上方修正の余地がある銘柄の循環物色が続く可能性があります。

当ファンドは、過去の実績や経営陣の手腕等により、増配に必要な利益とキャッシュフローを継続的に増大させてきた「質の高い企業」の中から、主として足元の配当利回りと今後の配当成長性に着目し、財務の安定性や流動性を十分に考慮したうえで、相対的に配当利回りの高い銘柄を中心に投資します。また、企業の収益動向や配当政策などの変化に注目し、今後の継続的な増配が見込める企業へも投資します。引き続き、以下の3点を重視します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「グローバル好配当株マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

1. 「経営実績や経営陣などの「会社の質」と配当実績が優れていること」
2. 「数年先までの成長持続性、売上やキャッシュフロー成長の確実性が期待されること」
3. 「今後の資本政策、特に配当を含む株主還元のスタンスが明確なこと」

「好配当株」企業への投資は、足元の相対的な配当利回りが高いだけでなく、今後、長期にわたり増配が続くという、「配当の成長」も重要です。優れた経営を実践している「質の高い」企業は配当政策など株主還元への姿勢も明確であり、投資家は定期的に配当収入を受け取りながら中長期の企業価値の成長（キャピタルゲイン）からも恩恵を受けることができます。

昨今の投資環境の変化を受けて、「好配当株」投資においても、今後の配当成長率と比較して足元の配当利回りが相対的に高い銘柄がより選好される可能性があります。当ファンドは、引き続き、配当利回りと配当成長率のバランスを重視した銘柄選択による安定的なパフォーマンスの実現を目指してまいります。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
債券	91.1	-0.1
現金等	8.9	+0.1
合計	100.0	0.0

※ 現金等に先物等を含めた値です。

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（％）	3.1	+0.0
残存年数（年）	4.6	-0.1
デュレーション（年）	4.1	-0.1
直接利回り（％）	3.1	+0.0
最終利回り（％）	3.4	+0.0
平均格付け	A	A

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 繰上償還条項が付与されている場合は、原則として繰上償還発効日を償還日とみなして算出しています。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 日本円	60.6	-0.5
2 アメリカドル	30.4	+0.4

※ 為替ヘッジ前の値です。現金等を除く。

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 日本	91.1	-0.1

種別構成比率（％）

	当月末	前月比
国債	4.5	-0.0
地方債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
事業債	82.3	-0.1
円建外債	0.0	0.0
その他債券	4.2	-0.0

格付構成比率（％）

	当月末	前月比
AAA	4.5	-0.0
AA	8.6	-4.5
A	62.7	+4.3
BBB	15.3	+0.2
BB以下	0.0	0.0

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 18)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (％)	残存年数 (年)	比率 (％)
1 富国生命保険相互会社社債	アメリカドル	日本	6.800	7.4	8.5
2 野村ホールディングス社債	アメリカドル	日本	6.070	2.0	7.7
3 朝日生命保険相互社債	アメリカドル	日本	6.900	1.6	7.7
4 日本生命保険社債	アメリカドル	日本	2.750	4.6	6.6
5 29 三菱UFJフィナンシャル・グループ劣後債	日本円	日本	2.919	5.0	4.5
6 26 三井住友フィナンシャルグループ劣後債	日本円	日本	3.043	5.4	4.5
7 482 2年国債	日本円	日本	1.300	1.7	4.5
8 9 三菱地所劣後債	日本円	日本	3.236	9.6	4.4
9 25 みずほフィナンシャルグループ劣後債	日本円	日本	2.741	5.0	4.4
10 85 東京電力PG	日本円	日本	1.803	3.3	4.4

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100％として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜6月の債券市場＞

国内の長期金利（10年国債利回り）は小幅に上昇しました。国内金利は、月初の10年利付国債入札が順調となり低下したものの、日銀総裁がタカ派（インフレ抑制を重視する立場）姿勢を示したこと等から利上げ観測が高まると、上昇に転じました。中旬以降は、中東情勢の改善期待から原油価格が下落したことが金利低下材料となった一方、日銀が金融政策決定会合で利上げを決定したことや、FOMC（米連邦公開市場委員会）でもタカ派的な姿勢が示されたことが金利上昇材料となり、国内金利は一進一退で推移しました。月末にかけては、政府が骨太の方針で日銀の利上げをけん制する姿勢を示す方針と伝わり、ビハインド・ザ・カーブ（金融政策の対応が後手に回ること）への警戒から金利上昇が進みました。

国内社債市場では、社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は若干縮小しました。日銀は6月に追加利上げを実施したものの、金融環境は依然として緩和的な水準を維持していることに加え、中東情勢が小康状態となり投資家のリスクセンチメント（心理）が改善しました。一方、依然として残る米・イランの交渉決裂リスクや金利のボラティリティ（変動性）上昇が社債市場の重石となり、スプレッドの縮小は小幅にとどまりました。

＜6月の運用＞

信用力に大きな懸念のない銘柄に厳選したポートフォリオを継続しました。金利ヘッジ戦略においては、金利の見通しに合わせて適宜ポジションを調整しました。

＜今後の見通しと運用方針＞

国内景気は、中東情勢の緊迫化による下押しの影響があったものの、先行きは経済対策や企業の根強い設備投資意欲を支えに成長軌道をたどる見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は足元で鈍化しているものの、政策要因の影響を除けば、今後も+2%程度の伸び率を維持する見通しです。日銀は物価安定の目標実現が視野に入らる中で、今後も金融緩和の調整が必要との姿勢を維持する見通しです。一方で、政府は日銀の利上げをけん制する姿勢を示しており、インフレ懸念が高まることが想定されます。財政拡大への警戒もくすぶり続ける中で、金利は上昇しやすい環境が続く見込みです。

国内社債市場では、社債スプレッドは横ばいから緩やかな縮小基調で推移するとみています。緩和的な金融環境や企業業績の底堅さに大きな変化がないことに加え、中東情勢が総じて落ち着きを取り戻しつつあり、サプライチェーン（供給網）の混乱も回避される可能性が高まっているため、投資家のリスク選好は改善に向かうと想定しています。ただし、中東情勢の再度の悪化やクレジットイベント発生の可能性への警戒は引き続き必要と考え

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「ジャパン・クレジット・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

ています。

当ファンドでは、スプレッド拡大に備え、信用力に大きな懸念のない銘柄を組み入れ、安定的な収益の確保に努めます。また、金利の見通しに合わせて、金利のヘッジも機動的に行っていく方針です。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	97.6	-0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	2.4	+0.2
合計	100.0	0.0

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	4.6	+0.1
残存年数 (年)	8.0	+0.1
デュレーション (年)	6.3	+0.0
直接利回り (%)	4.6	+0.1
最終利回り (%)	4.8	-0.0
平均格付け	A	A

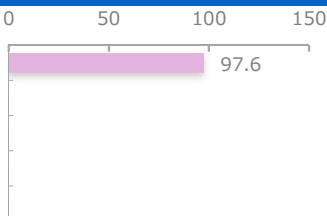
※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 格付けは投資債券に対する主要格付機関の格付けに基づいており、ファンドにかかる格付けではありません。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

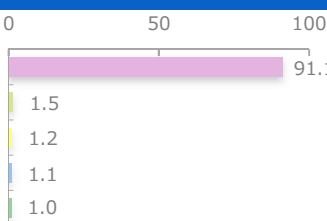
組入上位5通貨 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカドル	97.6	-0.2



組入上位5カ国・地域 (%)

	当月末	前月比
1 アメリカ	91.1	-1.2
2 日本	1.5	+0.0
3 イギリス	1.2	+0.9
4 アイルランド	1.1	+0.0
5 フランス	1.0	+0.0



種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	0.0	0.0
州政府債	0.0	0.0
政府機関債	0.0	0.0
国際機関債	0.0	0.0
社債	97.6	-0.2
その他	0.0	0.0

格付構成比率 (%)

	当月末	前月比
AAA	0.3	+0.0
AA	12.6	-1.3
A	69.4	+0.8
BBB	15.3	+0.3
BB以下	0.0	0.0

組入上位10銘柄

(組入銘柄数 211)

銘柄	通貨	国・地域	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 DRホートン社債	アメリカドル	アメリカ	5.000	8.3	1.8
2 エンタープライズ・プロダクツ・オペレーティング社債	アメリカドル	アメリカ	5.200	9.5	1.5
3 コムキャスト社債	アメリカドル	アメリカ	5.300	7.9	1.5
4 サーマフィッシャーサイエンティフィック社債	アメリカドル	アメリカ	5.404	17.1	1.3
5 アンフェノール社債	アメリカドル	アメリカ	5.250	7.8	1.2
6 ケンビュー社債	アメリカドル	アメリカ	5.100	16.7	1.1
7 ネットフリックス社債	アメリカドル	アメリカ	4.900	8.1	1.1
8 トレイン・テクノロジーズ社債	アメリカドル	アイルランド	5.100	8.0	1.1
9 コカ・コーラ社債	アメリカドル	アメリカ	4.650	8.1	1.0
10 ジョン・ディア・キャピタル社債	アメリカドル	アメリカ	2.450	3.5	1.0

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜6月の相場概況＞

米国の長期金利（10年国債利回り）は小幅に上昇しました。上旬は、雇用統計が市場予想を上回ったことなどを背景に、金利が上昇しました。中旬以降は米国とイランが戦闘終結の合意に至るなか、原油価格の下落とともに金利が低下しましたが、月末に労働市場の底堅さを示す指標を受けて上昇しました。FOMC（米連邦公開市場委員会）では市場予想通り政策金利の据え置きが決定されました。

社債スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は概ね横ばい推移となりました。

米ドル/円は上昇しました。米雇用指標の上振れやFOMCがタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な内容を受け止められたことから、米ドル買い・円売りが優勢となりました。下旬は、日銀の追加利上げ観測の後退などから一段と円安が進みました。

＜6月の運用状況＞

新発債については、資本財のリパブリック・サービスズ、電力のナショナル・グリッド等の新発債を購入しました。デュレーション（投資資金の平均回収期間：金利の変動による債券価格の感応度）は、前月比で概ね横ばいとしました。

A格相当以上を中心として、業種別では安定業種（消費・公益・通信）が過半となるように組み入れています。

＜今後の市況見通し＞

米国では雇用が堅調に推移する中、インフレ率の高止まりが続くとみられ、FRB（米連邦準備制度理事会）による利上げの可能性が高まっていると考えています。このような環境のなかで、長期金利は上昇に向かうと予想します。

米国社債市場は、景気が大崩れせず企業が比較的健全な財務を維持することを想定し、社債スプレッドは総じて安定的に推移すると予想しています。

米ドル/円は米ドル高・円安を予想します。金融政策の方向性は日米ともに利上げが想定されるなか日米金利差が維持されることに加え、日本企業の対外直接投資拡大や家計の外貨建て投信購入拡大などが円安材料と見込まれます。

＜投資方針＞

以上の投資環境見通しをベースに、社債発行企業の信用力評価や個別証券の投資価値に着目して、銘柄選択を

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

行っていきます。ポートフォリオ全体の業種配分は安定業種を多めとし、格付け配分についてはA格以上を中心とします。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ポートフォリオ特性値（％）

	当月末	前月比
配当利回り	4.7	-0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 配当利回りは予想配当利回りです。

※ Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10カ国・地域（％）

	比率	配当利回り
1 日本	48.0	5.1
2 シンガポール	22.5	5.1
3 オーストラリア	18.3	2.9
4 香港	8.0	7.0
5 インド	0.8	5.6

組入上位10通貨（％）

	当月末	前月比
1 日本円	48.0	+0.5
2 シンガポールドル	21.8	-0.2
3 オーストラリアドル	18.3	+0.5
4 香港ドル	8.0	-0.0
5 インドルピー	0.8	-0.9
6 アメリカドル	0.7	+0.0

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 48）

銘柄	国・地域	比率	配当利回り
1 グッドマン・グループ	オーストラリア	8.6	0.9
2 リンク・リート	香港	7.4	6.9
3 キャピタランド・インテグレートド・コマーシャル・トラスト	シンガポール	6.6	3.6
4 キャピタランド・アセンダス・リート	シンガポール	4.9	5.9
5 ユナイテッド・アーバン投資法人	日本	3.8	5.4
6 アクティビア・プロパティーズ投資法人	日本	3.5	4.6
7 ジャパンリアルエステイト投資法人	日本	3.4	4.4
8 オリックス不動産投資法人	日本	3.4	4.8
9 日本都市ファンド投資法人	日本	2.9	5.2
10 GLP投資法人	日本	2.9	5.1

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入投資信託の純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

6月のアジア・オセアニアリート市場は、オーストラリア市場が上昇し、シンガポール市場と日本市場はほぼ横ばい、香港市場は下落しました。

Jリート市場は、日銀が利上げを決定しましたが波乱は無く、中東情勢の緊張緩和と原油価格の下落などを背景に長期金利の急上昇が一服したことで安心感が広がるなか、底堅い動きとなりました。

シンガポールリート市場は、中東情勢の緊張緩和や原油価格の下落などが安心材料となり、底堅い動きとなりました。

香港リート市場は、金融政策で連動する米国の金利先高観が重石となる中、中国本土における景気減速懸念や資本流出規制を巡る不透明感などが嫌気されました。

オーストラリアリート市場は、RBA（オーストラリア準備銀行）は6月会合で政策金利を据え置き、先行きの利上げ姿勢を維持しましたが、中東情勢の緊張緩和と原油価格の下落などを背景に長期金利が低下したことが好感されました。

＜運用経過＞

マザーファンドの運用は、エリア及び銘柄毎の魅力度に応じ、リバランス（投資配分比率の調整）を実施しました。

＜市場見通し＞

【日本】

Jリート市場は、緩やかな回復を想定します。

中東情勢が緊張緩和に向かい、原油高やインフレ加速への警戒、金利先高感についても緩和方向にあると見受けられます。Jリート市場の5%程度の魅力的な配金金利回りや、不動産市場のファンダメンタルズ（基礎的条件）の良好さを背景に、緩やかな回復を想定します。

【アジア・オセアニア】

アジア・オセアニアリート市場は、ファンダメンタルズに基づいた評価に加えて、各地域の景気動向や金融政策を見据えた投資を行っていきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

シンガポールリート市場は、一進一退を想定します。

中東情勢の落ち着きを受けて、エネルギーを中心とした供給混乱への不透明感が後退していることが投資家心理の支えとなるほか、シンガポールでは引き続き底堅い国内景気が支えとみています。

香港リート市場は、一進一退を想定します。

香港では割安感、香港リーートのストックコネクト（上海・深セン－香港株式相互取引制度）への組入期待などが支えとみています。香港経済には改善の兆しが見られ始めていますが、リート各社の決算で確認される賃料動向は依然として減額改定が続いており、本格的な回復には時間を要するとみています。

オーストラリアリート市場は、一進一退を想定します。

オーストラリアでは、これまでの利上げの効果を見極める段階にあり、国内の景気指標に注目が集まる展開を想定します。引き続き、旺盛な需要の恩恵を受けるデータセンター関連リートや、インフレに伴う賃料上昇が期待される商業施設リートなどを中心に、底堅い推移を見通します。

(ESGトピック)

近年、自然資本や生物多様性への配慮が世界的に重視され、自然に関するリスクや機会を開示する枠組みであるTNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）に沿った情報開示を進める企業が増加しています。

こうした中、シンガポールリーートのフレイザーズ・ロジスティクス・アンド・コマーシャル・トラスト（以下FLCT）は、英国ロンドン南西部のファーンバラに位置するビジネスパークにおいて、生物多様性の向上に向けた取り組みを継続しています。2023年度には専門家による生態系調査をもとに樹木や草地、池などを対象とした管理計画を策定し、2024年度にはNo Mow May（5月に芝刈りを控え、ミツバチや蝶などの花粉媒介昆虫の生息環境を保全する取り組み）へ参加したほか、コンポストを導入しました。こうした継続的な緑地管理が評価され、同ビジネスパークは2025年度に、英国の公園・緑地管理を評価するグリーン・フラッグ・アワードを10年連続で受賞しています。

なお、FLCTのスポンサーであるフレイザーズ・プロパティはTNFDアダプターとして登録されており、FLCTもフレイザーズグループの一員として段階的にTNFD基準への準拠を進めています。気候変動対策に加え、生物多様性の保全は不動産の持続可能性や資産価値の維持・向上にもつながる重要なテーマであると考え、物件単位で自然資本の保全に取り組む同リートに注目しています。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

※ このページは「FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）」が主な投資対象とする「リート・アジアミックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜今後の運用方針＞

上記見通しに基づき、今後もファンドの基本コンセプトである、「収益の成長性に加え、配当利回りなどのバリュエーション（投資価値評価）に着目した運用」を行います。アジア・オセアニアリートにはJリート投資だけでは得られない際立った魅力（高水準の利益成長の実現、Jリートよりも高い配当利回りなど）を持った銘柄があります。外部環境にも留意しながら、引き続き個別銘柄選択を重視し、ファンドを特徴づける魅力的な銘柄群に投資する方針です。

また、我々はアジア・オセアニアリートにおいてESGリサーチを行っています。ESGリサーチを活用したリートとの対話を通じて、リーートの企業価値の向上を図り、ひいてはファンドのパフォーマンスの改善、リート市場のサステナビリティ（持続可能性）向上を推し進めていく所存です。

なお、IPO（新規株式公開）の申し込みにあたって、いわゆる関心の表明等を用いた手法を活用することも検討していきます。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンドの特色

- 投資信託への投資を通じて、世界各国の債券、株式、リートに分散投資します。
 - 各資産への投資は、以下の投資信託証券を通じて行います。

日本株式	FOFs用配当フォーカスファンド（適格機関投資家専用）
グローバル株式*1	グローバル好配当株マザーファンド
日本債券*2	FOFs用ジャパン・クレジット・ファンド（適格機関投資家専用）
海外債券	コーポレート・ボンド・インカムマザーファンド
リート	FOFs用リート・アジアミックス・ファンド（適格機関投資家専用）
 - *1 日本株式を含みます。
 - *2 日本の民間企業またはその子会社のほか、国、地方公共団体および政府関係機関が発行する外貨建債券を含みますが、原則として対円での為替ヘッジを行います。
 - 投資信託証券は、投資対象資産、投資手法および費用等を考慮して選定します。
 - 安定したインカム収益を長期的に獲得することを目的として、基本資産配分は原則として固定配分とします。
 - それぞれの資産の時価変動等に伴う各資産比率の変化については、一定の範囲を設けて調整を行います。
 - 市場環境等が大きく変化した場合、基本資産配分の見直しを行う場合があります。※基本資産配分は、安定したインカム収益の長期的な獲得を目的とするとともに資産間のバランス等を勘案して決定します。ただし、投資対象とする資産やその配分比率は見直しを行う場合があります。
 - 実質組入外貨建資産の一部に対して、対円での為替ヘッジを行うことがあります。
 - 基準価額は、為替ヘッジを行わない実質組入外貨建資産に対する為替変動の影響を受けます。
- ※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金と異なります。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。



三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

投資リスク

■ 不動産投資信託（リート）に関するリスク

【リートの価格の下落は、基準価額の下落要因です】

リートの価格は、不動産市況や金利・景気動向、関連法制度の変更等の影響を受け変動します。また、リートに組み入れられている個々の不動産等の市場価値や賃貸収入、個々のリートの事業活動や財務状況等によっても価格が変動します。これらにより、ファンドが組み入れているリートの価格が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【部分的な為替ヘッジにより、円高が基準価額に与える影響は軽減されます】

ファンドは、実質組入外貨建資産の一部について対円での為替ヘッジを行うことがあります。為替ヘッジが行われていない部分については為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

為替ヘッジが行われている部分については為替変動の影響を受けますが、原則として対円での為替ヘッジを行うため、その影響は限定的と考えられます。ただし、完全に為替変動リスクを回避することはできません。なお、円金利がヘッジ対象通貨の金利よりも低い場合、その金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。また、需給要因等によっては金利差相当分以上にヘッジコストがかかる場合があります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

【分配金に関する留意事項】

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要がある場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。



愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2024年1月4日設定）

決算日

毎年5月、11月の15日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- 当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
購入価額に3.30%（税抜き3.00%）を上限として、販売会社毎に定める手数料率を乗じた額です。詳しくは販売会社にお問い合わせください。
- 信託財産留保額
換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.13%を乗じた額です。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に年0.957%（税抜き0.87%）の率を乗じた額です。
※投資対象とする投資信託の運用管理費用を含めた場合、年0.9812%（税抜き0.892%）程度となります。ただし、投資対象とする一部の投資信託において運用管理費用（信託報酬）がかかるほか、各投資信託においてその他の費用・手数料がかかります。その他の費用・手数料は運用状況等によって変動するため、事前に料率等を示すことができません。上記の料率は、2025年11月末現在の情報に基づくものであり、今後、変更される場合があります。
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。



愛称：はぐくむニーサ(成長)

マンスリー・レポート

三井住友DSインカムバランスNISAファンド (成長投資型)

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 【受付時間】 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

愛称：はぐくむニーサ(成長)
三井住友DSインカムバランスNISAファンド
(成長投資型)

マンスリー・レポート

追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2026年06月30日

販売会社								
販売会社名		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	日本証券業協会	備考
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○		○			
スターツ証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第99号	○		○			
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第121号	○	○				
ワイエム証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長（金商）第8号	○					
株式会社北九州銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第117号	○			○		
株式会社富山第一銀行	登録金融機関	北陸財務局長（登金）第7号	○					
株式会社もみじ銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第12号	○			○		
株式会社山口銀行	登録金融機関	中国財務局長（登金）第6号	○			○		

- 当資料のご利用にあたっての注意事項
- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
 - 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に関し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
 - 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
 - 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
 - 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
 - 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用